

独立行政法人国立美術館の平成29年度業務実績に関する評価結果を踏まえた運営業務の改善等への反映状況

中期計画項目	平成29年度業務実績評価における主要な指摘等	左記の指摘を踏まえた平成30年度の改善の状況
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開</p> <p>(1) 多様な鑑賞機会の提供</p>	<p>展覧会の開催に当たっては、各館ごとの役割等を明確化しつつ、各館の間の連携強化を図るなど、最大限の効果が図られるように法人全体で戦略的に取り組む必要がある</p>	<p>平成29年度に東京都立館と国立館が連携して実施した夜間開館をPRする取組(「宵の美」)をきっかけに、平成30年度は、東京メトロと都立4館(東京都美術館、東京都庭園美術館、東京都江戸博物館、東京都写真美術館)及び国立3館(東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館)が連携し、新たな体験型アートエンターテインメントとして「7つの謎解きミステリーラリー」を7月から9月に実施し、民間を含めた法人の枠を超えた連携により、これまでにない企画を行い、夜間開館の周知と新たな客層の獲得に努めた。</p>
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開</p> <p>(4) 教育普及活動の充実</p>	<p>教育普及事業については、体験型プログラムの実施等、多様なプログラムの実施に努める必要がある。</p>	<p>東京国立近代美術館では、新たな試みとして、文化庁の補助事業である「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の活用で、英語による異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」の構築とプログラムを担う英語ファシリテータの養成を行った。国内の美術館では初の試みとなる本プログラムは、一般的な作品解説ではなく、ファシリテータと参加者(外国人)が会話をしながら作品への理解を深めていく体験型プログラムであり、入念な準備のもとトライアルを重ねて、平成31年3月よりプログラムを開始した。</p> <p>また、京都国立近代美術館では、視覚障害者と協働しながら新しい美術館体験や作品鑑賞の在り方を探る「感覚をひらくー新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」(文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館</p>

		<p>支援事業」)の一環で所蔵作品を手で触れ、対話しながら鑑賞を深めるプログラムを継続的に開催したことで、多様な感覚を用いる鑑賞活動の可能性について、障害の有無を越えて考える機会を提供した。</p> <p>国立国際美術館では、新たに専門家とともに企画した0歳児とその保護者向けのツアー「赤ちゃんが美術館と仲良くなる鑑賞プログラムーびじゅつかんといっしょー」を開催し、未就学児に特化したプログラムの有効性が確認できた。</p>
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開</p> <p>(6) 快適な観覧環境の提供</p>	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人向けの展示環境の充実等、多言語化に向けた取組等については、積極的に推進していく必要がある。</p>	<p>法人全体で展覧会における多言語(日・英・中・韓)によるキャプション・解説を標準化するとともにスマートフォンなどの情報端末を活用した多言語による作品解説等を提供し、入館者の利便性の向上を図る取組の充実に努めた。</p> <p>また、国立映画アーカイブでは、メガネ型端末への字幕送付を用いた多言語上映の特別試写会を開催し、映画鑑賞における多言語化への取組を進めている。</p>
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>3. 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与</p> <p>(3) 国内外の映画関係団体等との連携等</p>	<p>「国立映画アーカイブ」については、我が国唯一の国立の映画専門機関として、その活動を広く国内外に周知するとともに、所蔵作品等の活用、関係機関との幅広い連携、国際的な取組の強化など、機能強化に係る取組を一層戦略的に進めていく必要がある。</p>	<p>映画フィルム収集・保存・修復、上映会や展覧会の企画・実施、教育・研究活動の展開、国内外諸機関との積極的な連携など、ナショナルセンターとしての役割を果たすべく、「国立映画アーカイブ機能強化会議」を設置した。同会議の委員は大手4映画会社役員他、文化庁、内閣府、外務省、経済産業省、大学教授、国際交流基金、俳優(映画監督)により構成されるこれまでにない産官学連携の形である。平成30年度は2回(11月、3月)の会議を開催し、国立映画アーカイブに期待すること等について意見交換が行われ、国立映画アーカイブの機能強化のために映画各社から人的</p>

		<p>なものを含めた必要な協力をしていく、ということが了承された。</p> <p>また、国内外の FIAF 加盟機関との連携を生かし、海外の同種機関の貴重なコレクションを紹介するという映画文化の中核機関としての責務を果たした。</p> <p>そのほか、所蔵映画フィルム検索システムの拡充を図り、情報収集・発信に努めており、映画関係団体や大学等との連携強化にも積極的に取り組んだ。</p>
--	--	---